

# 収益アップにも直結する!

## いまどきの「SEO対策」

SEO対策に力を入れている企業は多いものの、なかなか効果が出ていないのが実情のようです。いまどきのSEO対策を紹介します。

河合中小企業診断士・社会保険労務士事務所  
代表

河 合 正 尚

### SEOの基本とは

SEOとは「Search Engine Optimization」の略語で、日本語では「検索エンジンの最適化」という意味となります。つまり、WEBサイトの内容をGoogleなどの検索エンジンに理解しやすいように最適化することです。

検索エンジンの表示順位は企業の収益にも大きな影響を与えるため、SEO対策に力を入れる企業も多いのですが、なかなか効果が出ていないのが実情です。

検索エンジンはどんどん進化し

て変化が激しいため、対策が時代遅れでは効果が見込めません。

また、Google検索の場合には200以上の検索アルゴリズム（二説には1000以上とも言われる）を複合的に判断して順位付けしているため、これをすれば万全という魔法のようなSEO対策は存在しません。

Google検索対策の重要なポイントは、以下の3点です。全部すぐにできるものではありません。急がば回われで、愚直に対応するしかないのです。

- ・作法を守る
- ・検索意図にあうページをつくる
- ・ページ全体の質を高める

特に重要なのは「検索意図にあうページをつくる」ことです。

Googleなどの検索エンジンを使う人は何かしらの意図や疑問を持ってその用語を検索しており、検索エンジンは、その意図や疑問が解決できるページを紹介することを目指しています。

この、検索エンジンが目指す方向を意識することが重要です。

つまり、企業としてはユーザーが求める意図にあったページをつくるのがSEOの基本となるのです。

### 新たに加わったランキング指標とは

具体的な対策を施すことが難しいSEOですが、2021年から新たなランキング指標が加えられることが発表されています。

Core Web Vitals（コアウェブバイタル、以下「CWV」）です。CWVとはWEBサイトの使いやすさなどを示す指標で、ユーザーがページを訪れた際にどのような体験をしたかが数値で可視化されます。

具体的には、図表にある3つの指標からなります。それぞれ順番に見ていきましょう。

#### (1) LCP

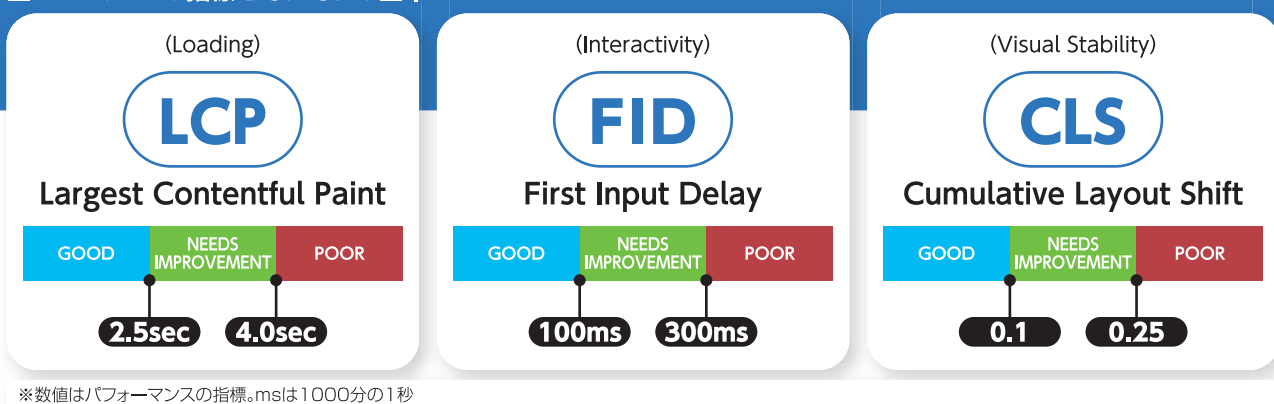
LCPは「Largest Contentful Paint」の略語で、日本語では「最大コンテンツの描画」と訳されます。

具体的には、サイトページ内のメインとなる画像などが表示されるまでにどれだけかかったかを表わします。当然、速ければ速いほどユーザー体験は良好だったということになります。

#### (2) FID

FIDは「First Input Delay」

## ■CWVの3つの指標とそれぞれの基準



の略語で、日本語では「初回入力遅延」と訳されます。

言葉どおりの意味で、ユーザーが操作を始めてから応答するまでの時間です。こちらも短ければ短いほどよい指標となっています。

### (3) CLS

CLSは「Cumulative Layout Shift」の略語で、日本語では「累積レイアウト変更」と訳されます。

クリックしようとしたのに、WEBページが微妙にずれてしまった、自分が意図していないところを押してしまった経験は誰もがあ

るでしょう。そんなことがないように、ページを読み込んでいる際のズレをレイアウトの移動量として指標化したのがCLSです。

### CWVの対策方法

CWVの結果は、「Page Speed Insights」というツールで確認することができます。URLを入力するだけで、読み込み速度をスコア測定し、改善すべき点を分析してくれます。

ここで指摘される項目を、1つひとつ改善していきましょう。必

要な対策はWEBサイトによって異なりますが、今回はありがちな問題と対策を解説します。

### (1) LCPとFIDの対策

LCPとFIDの対策としては、次のものが挙げられます。

- ・画像データサイズの最適化
- ・専用プラグインの導入
- ・速いサーバーに変更

まずは画像のデータサイズを疑ってみましょう。どれだけサイズなら大丈夫という目安はありませんが、原則として100KB以内になるように調整します。

Googleの提供する「Squoosh」サイトを使えば、簡単に画像データサイズを変更・圧縮できます。

また「EWWW Image Optimizer」などの画像圧縮プラグインを入れることで、画像データを一括して小さくすることもできます。

ワードプレスを使っているなら、CWV対策ができる高速化プラグインを導入してみましょう。無料のものでは「Autopminize」や「W3 Total Cache」などが有名です。

有料のもので世界的に利用者が多いのは、「WP Rocket」です。

以上の部分を改善しても「Page Speed Insights」でサーバー速度

に指摘があるようなら、サーバーを替えてみるのもよいでしょう。最近では、サーバー速度を売りにしているプランも増えています。

### (2) CLSの対策

CLSの対策は、前述の「Page Speed Insights」だけでは原因が見えてこないため、上手く対策ができない企業も多いようです。

そこで、Microsoft Clarity(ク

ラリティ)という無料のWEB解析ツールを使うのがお勧めです。まずMicrosoft Clarityを使い、CLSが発生している箇所を見つけてみましょう。なお、CLSの問題が生じてしまうケースが特に多いのは以下のパターンです。

- ・画像サイズが指定されていない
  - ・アドセンス広告が貼ってある
- 画像サイズは、画像の横幅と縦幅を具体的に指定することで対策できます。

アドセンス広告で問題が生じているケースも同様で、広告のサイズをあらかじめ指定することで対応できます。

CLSはこれをやっておけば十分という対策はなく、地道に現状把握と改善を繰り返していくしかありません。

かわい まさなお 会計事務所・製菓会社、ITベンチャーなど4社を経験。中堅IT企業の管理本部副部長を経て独立。現在は各種研修セミナーの実施や企業への経営支援を中心に活動している。